

平成 29 年度第 2 回横須賀市自殺対策連絡会会議録

- ・ 日 時 平成30年 1 月31日（水）午後 3 時00分から午後 4 時00分
- ・ 場 所 横須賀市保健所 第 1 研修室
- ・ 出席者 阿瀬川孝治、荒木康男、有沢貴美栄（森田佳重代理）、飯島和彦、大滝紀宏、岡崎敏明、奥津和弘、工藤幸久、今野幸子、高城由美子、竹村一雄、田中知己、塚田美保子、中島直行、橋本健司、林清隆、松本義弘、毛利崇行、山崎亨
(敬称略、五十音順)
- ・ 事務局 惣田晃 : 健康部長
小林利彰 : 保健所長
夏目真一 : 保健所健康づくり課長
小菅俊彦 : 保健所健康づくり課こころの健康係長
嶋村由香里 : 保健所健康づくり課こころの健康係主任
桑畑小夜 : 保健所健康づくり課こころの健康係主任
井手山恭子 : 保健所健康づくり課こころの健康係保健師

1 開 会

2 健康部長のあいさつ

3 構成員の紹介

1 名の代理出席及び 3 名の欠席により構成員総数は 2 4 名である。

4 傍聴者 4 名（遅れて参加 1 名）の報告

5 議 事

(座長)

議事 1～3 について事務局のこころの健康係から説明をお願いします。

(1) 横須賀市における自殺の状況について

(事務局)

保健所健康づくり課の小菅と申します、よろしくお願いたします。

資料 1 をご覧ください。国は市町村が自殺対策計画を策定するにあたって、地域の自殺の実態を明らかにする「地域自殺実態プロファイル」を示しました。内容ですが、主に警察庁の自殺統計の平成24年から28年までの5年間分を特別集計、クロス集計をして分析したものです。まず、1 ページの真ん中に、地域の主な自殺の特徴として横須賀市で人数の多い自殺の上位 5 区分が示されています。こちらについては、年齢は、20・30代、40代・50代、60代以上と年齢については 3 区分に分け、さらに性別、職業の有無、同居の有無をクロス集計し、24 区分に分けて集計したものです。

最も多いのが、女性の 60 歳以上、無職、同居人無の方となっており、43 人の方が自殺により亡くなっています。詳細の資料につきましては、11 ページをお開きいただき、付表 1 をご覧ください。全 24 区分についての自殺者数、自殺率、全国との比較等の数値が出ています。

1 ページに戻っていただき、1 位の背景にある主な自殺の危機経路について、身体疾患、病苦、うつ状態、自殺とありますが、これはライフリンクが 24 区分別に主な危機経路を分類したものです。9 ページをご覧ください。こちらに全区分の主な危機経路の例が記載されています。

再び 1 ページに戻っていただき、上位 5 位のこれらの特徴から、国は横須賀市の自殺対策で推奨される重点パッケージとして、高齢者、生活困窮者、勤務・経営を示しました。必ず推奨パッケージどおりにしなければならないものでなく、これを目安とし、次ページ以降の分析なども含め検討するように言っています。

2 ページをお開きください。中段の「地域の自殺の特性の評価」です。20 代に★印がついています。こちらの説明は 10 ページになります。指標のランク基準について★3 つが自殺率の全国上位 10% 以内、★2 つが 10～20%、★1 つが上位 20～40% となっております。一はその他、となっております。年代ごと指標の下限値は、参考表 3 に示されています。2 ページにお戻りください。横須賀市の場合は、20 歳代のみが★1 つ、上位 20～40% となっております。しかしお隣のローマ字の a は、自殺者数が少なく、1 人の増減でランクが代わるものになっています。

3 ページから 5 ページ前半までは、第 1 回の自殺対策連絡会において本市で分析したものと同様の内容になっています。地域の就業者の常住地、従業地は、自殺の統計ではなく、平成 27 年度国勢調査のデータが記載されています。

6 ページをお開きください。高齢者関係として 60 代以後の同居人の有無とのクロス集計、全国比較と、ハイリスク地関連資料として、横須賀市で発見された自殺者数、横須賀市に住所のある方の自殺者数の比較が示され、単純に比較すると、住居地の方が多くなっており、市外で自殺した方が多いという結果になっています。

7 ページは、第 1 回の連絡会で示した内容と同じものであり、8 ページは自殺の資料ではなく、悩みやストレスの割合が記載されていますが、市町村単位のものがないため、神奈川県データになります。今後実施予定の市民意識調査に同様の内容を載せておりますので、意識調査の結果が出れば、同様の結果がでると考えております。説明は以上となりますが、実は、このプロファイルは、県を通じて今週の月曜日に示されたばかりであり、まだ事務局でも内容の詳細な解析まではできていない状況です、以上です。

(座長)

ありがとうございました。非常に興味深い重要な資料だと思います。分かりにくいところもあるかとは思いますが、ご意見ご質問などありますでしょうか。この実態、これは特別集計でありますので、単年度ではございませんが、やはりここ数年の傾向としては、高齢者、生活困窮者、また、高齢者の問題はここ数年、近年多くの問題がありますし、もうひとつ、2 ページ目のところでは、こども、20 代、10 代からの若年者、若者たちの自殺に関する統計も出ているということですね。当市では、高齢者、生活困窮者、若年の方がデータでも出ているということですね。いかがでしょうか。これに関しては、後半また話ができればと思っています。或いは、また後ほど時間を取らせていただきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

では、続きまして議事の 2 をお願いします。

(2) 自殺対策計画について

①第 1 回自殺対策計画策定委員会報告

(大滝構成員)

横須賀市自殺対策策定委員会の委員長として、自殺対策計画を策定しつつあるんですが、そもそもなぜこういう会が開かれているかということ、平成29年4月に自殺対策基本法が改正されて市町村に自殺対策計画の策定が義務化されました。横須賀市においても、新たに自殺対策計画を策定しなければならないことになりました。しかし、従来からご存知のように、平成18年からこの連絡会が開かれており、それがかなり機能しているという状況があります。そこで、自殺対策計画を策定するにあたっては、できるだけ、この自殺対策連絡会との連携を保って策定をしていきたいということを考えて、願いを持っています。10月24日に第1回の委員会を催しました。委員会の委員ですが、私が委員長になり、神奈川県立保健福祉大学の行實委員が副委員長となり、NPOライフリンクの堀委員、NPO全国自死遺族総合支援センターの杉本委員、市民公募の小砂委員の延べ5人でディスカッションしました。そのディスカッションの内容を報告いたします。もちろんその委員会には、事務局として、今日ご出席の惣田部長をはじめ保健所の皆様にも立ち会っていただきました。その委員会の報告ですが、ひとつは、事務局より本市における自殺の現状及び分析について説明が行われました。今日の話とも重なる話です。2番目に、委員会の皆でディスカッションをしたところ、いくつかの意見が出たので報告しておきます。

ひとつは、横須賀市の自殺の実態について、更に詳細な分析が必要であろう。地域別、年代別、あるいは、地域特性の有無についてクロス集計をしていただきたいということになりました。資料1に反映されて資料ができていますと理解しています。

委員会の中で次に出たのが、市民に対して意識調査として、市民アンケートを実施してはどうでしょうか。つまり、委員会、或いは連絡会だけで決めるのではなくて、市民の皆様の意見をきちんと聞きいれてやってはどうでしょうか。内容を考えるにあたっては、啓発にもなるような内容とし、自殺や自死に対する意識や認識を確認できるような内容、回答に抵抗感を持たれにくいアンケートの題名とする等を提言いたしました。他の市においても、このようなアンケートは行われていて、他の市のアンケートも十分に参照して、実は今日、直前になって申し訳なかったんですけど、各構成員のところアンケートの案を送ってあります。後程、こちらについては議論されることになると思います。それから、委員会の中で出た話題としては、横須賀市の自殺率が神奈川県全体に比べて高いことについての分析と改善ができないだろうかという意見がでました。

それから、委員会の方の他の議事としては、続きになりますけれど、計画策定にあたっては、とにかく市長がトップとなっていていただくことが大事であろう、それから、生きることの阻害要件をこれまでは一生懸命考えてきたけれど、これからは、生きることの促進要因を高めるような提言がこの自殺対策計画の中に入っていくといいのではないかと思います。それから、ゲートキーパー研修のあり方について検討を行う、或いは、相談を受けやすい体制をつくっていけないかという意見が出ました。相談を受けやすいとはどういうことかということ、どこかの場所で相談を受けますよということではなくて、SNSや手持ちのスマートフォン等で気軽に相談できるような、SOSを出せるような、受け止められるような体制を作れないかなということディスカッションしました。

なにぶん、第1回の委員会でしたので、自由な討議をしたんですけど、来週、第2回の委員会があります。今日の自殺対策連絡会の中でのご意見を十分に生かして来週の議論にできると思いますので、構成員の皆様におかれましては、積極的な意見をどんどん出していただくことが施策を作る良いヒントになると思いますのでどうぞよろしく願いいたします、以上です。

(座長)

ありがとうございました。具体的に実のあった委員会だったろうと思います。報告を伺って、これから益々具体的になっていくのではないかと思います。今の報告に関して、ご質問等ございますでしょうか、無ければ次に進めてまいりたいと思います。では、次の議題についてよろしく願いいたします。

②こころの健康に関する市民意識調査 調査票(案)について

(事務局)

委員会の提言をうけまして、市民アンケートの案を作成いたしました。構成員の方には事前配布させていただいた、市民アンケートについて説明させていただきます。

アンケートの目的は、市民の心の健康や自殺に対する意識などを調査し、基礎資料とするためです。調査方法は、住民基本台帳から無作為抽出した方に、2月下旬に郵送にておこないます。一昨年同様の調査を実施した横浜市の回収率が31%と低い数字でした。横須賀市における統計上の必要回答数は、400以上となるため、自殺対策計画策定委員会、ワーキンググループや関係部局と調整した結果、対象は18歳以上、調査数は1,500の数としました。

調査内容は大きく分けて、①あなたのこと、②悩みやストレスについて、③相談すること、④相談を受けること、⑤自殺に対する考え、⑥自殺対策、⑦自死遺族支援について、⑧本気で自殺を考えたこと、となっています。なお、最後の問いについてはかなりナーバスな問いとなりますので、あえて注意書きをつけて、回答は強制ではない旨の注意書きを入れました。

今回の調査対象となった方が、もしも悩みを抱えていてまだ相談できていない方がいた場合に、速やかに相談につながるよう、説明書きの裏面とアンケートの最終面に相談先として保健所とところの電話の連絡先を記載する配慮をいたしました。

以上簡単な説明となりますが、ご意見等があればよろしく願います。

また、皆様の意見を2月8日の自殺対策計画策定委員会にも出したいと思っておりますので、時間がないうちで大変恐縮ですが、前日の2月7日までに教えていただければと思います、よろしく願います。

(座長)

ありがとうございます、いかがでしょうか？

事前に資料は皆様方のところに届いていると思いますので、何かお感じになったことなどがあればお願いします。こういったアンケートは以前から実施をしたほうが良いと思っていましたので、実際に行われるということ。

(大滝構成員)

補足です。この調査票について、ちょっと心配していることは、自分のところにこういうものがきたのは、特別な意図があったのではと感じられたりしたらと考えると心配なので、説明書きの“住民基本台帳を基に1,500人を無作為に抽出いたしました”という箇所を太字などで強調できるといいのかなと思ったのが1つと、内容で、これだけのことを聞かれた人がどんな風に思うのかなということ、先ほども言ったように、特別に自分のところに来たのではなく、無作為抽出によって来たから回答すると思われるような形にできればと思います。しかし、委員会としては、こういう形で市民の意図を知りたいと思っておりますので、皆様の意見を伺えればと思っております。

私の方から、問4の居住年数についてですが、1年未満の場合は1と記入してくださいのところは、1年半でも1年になるのか2年になるのか、1年未満のところだけ切り上げするのか、趣旨がちょっと分からなかったです。2年半の場合は切り上げするのかしないのかがはっきりしない、迷ってしまった感じがしました、以上です。

(座長)

ありがとうございます。確かに微妙な、受け取り方が曖昧だと悩む、そういうところでもアンケートの回収率って落ちたりするので、分かりやすい方がいいかとは思いますが。例えば、ここは、上の年齢と同じように、選択ですするというのもありかな、と思ったりいたします。例えば1年未満か2年か3年か、ちょっとざっくりとしたものでもいいのかなという気はいたします。

(橋本構成員)

司法書士の橋本です。

アンケートの順番について意見を述べさせていただいて参考にさせていただければいいと思います。問1から始まるのは、自分が特定されるのではないかということを経験から聞いてしまうと、その後続きにくいのかなと。あまり細かいことは、逆に後ろの方に持っていく。アンケートを書いて、ここまで書いたからこれでもう終わりにするのかとか、感じてあるんですね。なので、男性女性とか大ざっぱなものは最初の方でいいと思うんですが、その後の問10の辺までいくと詳しく最初にあると答えにくいと思うので、逆にこういうのは、思い切って最後のほうに持ってきてしまうっていう手もあると思います。そうすると、こんなにいっぱい書いたんで、このあたりまで書いたら書いていこうという気持ちになるので、最後の方にもってくるのはいかがかと思いますが、参考にさせていただければと。

(座長)

ありがとうございます、大変貴重なご意見だと思います。大学などはこういう調査をやっていますので上手な聞き方があるのかなと。要するに構成の仕方、中身よりも順番であるとか、A4 1枚に全部収めるとかすると返ってくるか。そういう詰め込んだ形で、回収率を高めるとというのが非常に重要な場合は、必要な情報をちょっと削って、回収率を上げるためにもう少し絞るという方法もありますし、たくさん情報を得るためには回収率を下げてでもいいから欲しい情報を得ると、どちらでいくかということになります。例えばというか、多分、行政、市役所の皆様の方が詳しいのかもわかりませんが、いかがでしょうか。

(高城構成員)

市役所人権男女共同参画課の高城と申します。

細かいところですが、アンケートの問16のところ、選択肢Eの近所の人、(自治会の人、民生委員など)と書いてあるんですが、隣近所は全て自治会の人だと思いますので、人というのが自治会の役員さんを指しておられるのであれば自治会の役員というように記載されるのがいいと思います。

それから問19のところ、選択肢Cのところですが、自殺は繰り返されるのでとありますが、自殺未遂行為は繰り返されるのでになるのかなと思ったんですが。

それから同じページの間21で、21とお答えした人に対して、6を選んだ人に対して、問23でへとあるんですが、問22への間違いではないかと思いますが、ご検討下さればと思います。

(座長)

ありがとうございます、非常に丁寧な指摘だったと思います。どうでしょう、この辺りは。

(事務局)

修正するようにいたします。

(座長)

そうですね、特に最後なんかは。ご議論はまだまだあるかと思いますが、ありますか。

(松本構成員)

横須賀市産業振興財団の松本です。

最初の調査票とあるなかの趣旨を説明している1ページのところですね、これは枠組が四角く囲ってあるところに角が取れている、とてもいいことだと思いました。

行政機関は仕事柄、角が取れるような対応をするというところで、角を取るというのは柔らかさを出すことで、本文についても、エクセルで作っているのが難しいかもしれませんが、角が取れるような配慮をしていただければと思います。

それから、問10のあなたは何かがあれば幸せだと思いますかの中で、意図的になるかもしれませんが、今後の施策のひとつとして、13番自分の好きなもの（コレクション）とあるんですが、夢中になれる趣味などに置き換えることは、今後の施策を検討するときに、コレクションをすすめる施策って打ち出しづらいんですけども、次に仲間づくり、夢中になれる趣味とか、具体的な動きを引き出すためでも、この中に入れておくことは必要なことでないかと思います。

それから、問12、私の同業者の方で、富山と新潟の皆さんが、その日の天候、特に雲が低くおりて雪がふっているという非常に憂鬱になるということで自殺のリスクが高まるという話を直に聞いたことがあります。それで、例えば、その日の天候に気分が大きく左右されることがあると入れると、相談日の設定とかなどに役立てるのではないかと思います。

問13のEです。趣味やレジャーをするというところですが、趣味をする、レジャーをするという表現は日本語的に難しいですので、趣味やレジャーを楽しむに変えられてはいかがでしょうか。

後は問の15のBの垂流の考え方で、誰かに相談することは恥ずかしいことだと思うことと反対側ですね、私共のところではやっている働く人の場合、相談相手に心をひらくことは難しいことだと思うという感想をいただいておりますので、相談相手に心をひらくのは難しいことだと思うという聞き取りをご検討いただければと思います。

そして、問26。これ、先ほど来申し上げていることと繋がっていくことなんですが、自殺を減少させるために必要となるものは何だというなかで、この中に残念ながら、サークルとか、仲間作り、趣味を持つためのセミナー、講座が入っていないので、こういったすぐに我々ができる施策として入れておくことと実際に行動に結びつきやすいのではないかと感じました。私からは以上でございます。

（座長）

ありがとうございます、大変参考になるんじゃないかと思います。

ぜひ事務局で取り入れていただいて、丸みを持たせるということもそうですけど、少しずつ言葉の使い方を検討し取り入れて貰えるといいのではないかと思います。

（森田構成員代理有沢氏）

問26のところで、一番下にゲートキーパーとはの説明が書いてあるのですが、対応することができる人、で止まっているんですが、丁寧に言葉が使われているので、対応することができる人のことをいいますというように語尾を変えてはどうかと思います。

（座長）

ありがとうございます。一つずつきちんとしておくこと、市民の方々も丁寧に感じると思いますし。大滝先生よろしいでしょうか。

（大滝構成員）

どうも貴重なご指摘をありがとうございました。策定委員会の中で一番大切にしたいのは、これから横須賀をどうしていけばいいのかというところで、今日のご指摘は非常に重要で、市民の中でそういう、生きるためにこういう方法があったらいいな、こうしたいという気持ちがここにあると、施策に反映しやすいと思います。今日のご意見を尊重しながらアンケートを考えていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

（座長）

ありがとうございました。まだまだ議論や色々なアイデアがあるかなと思いますけれども、まだ議事が残っておりますので、進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。では、続きまして、次の議題をお願いいたします。

- ③横須賀市自殺対策計画（仮称）の骨子案について
- ④横須賀市自殺対策計画推進体制について

（事務局）

議題の（２）の③④一括して自殺対策計画について説明します。資料３の手引き、16 ページをお開きください。自殺対策計画策定にあたっての流れが示されています。この計画の流れに沿って、他の資料と合わせて説明していきます。

①意思決定体制をつくります

行政トップが責任者となる、庁内横断体制を整える、広く住民参加を得る、地域ネットワークの参加を得る。とされています。併せて資料７の裏面をご覧ください。３の「手引きへの対応」として、新たに市長をトップとした（仮称）自殺推進本部を作り、メンバーを各部局長として庁内横断体制を作ります。また、当連絡会は、手引きでいう「地域ネットワークによる組織」となり、委員会は住民や有識者を加えた検討会であり、またパブリックコメントを実施して市民の参加を得ることとして、市、関係機関、市民と連携して計画を策定していきます。

手引きの 16 ページに戻っていただき、②関係者間で認識を共有する、これは先ほど説明したプロフィールについては説明をさせていただきました。本市で今までやってきた自殺未遂者を含む分析、そして市民アンケート等を通じて認識を共有して、横須賀市の計画策定に生かしていきたいと考えています。

③地域の社会資源を把握する

これまでの自殺対策連絡会の取り組みのほか、市役所内の関連する事業についても把握していきます。併せて資料４「市町村版事業の棚卸事例集」をご覧ください。これは国が作成した事例集で、自殺防止だけではなく、生きる支援につながるような事例も計画に取り込むようにと作ったものです。本市においても庁内各部署に依頼し協力を得て同様の棚卸しをして、関係する事業を自殺対策計画に取り込んでいく予定です。

また、資料８「地域自殺対策政策パッケージダイジェスト版」をご覧ください。こちら国から配布された資料になります。全 300 ページ以上になるものから抜粋したものです。これも今週月曜日にＣＤにより配布されたばかりで、詳細な内容確認はできていません。36 ページをお開きください。ここに性的マイノリティが出ております。こちらの事業名をクリックすると、さらに詳しい内容のものがでてくるといったものになっております。

各分野ごとの対策事例等が示されています。本市の取り組みからは 36 ページに未遂者支援と性的マイノリティが記載されています。さらに、最終ページにさらに詳細が分かるようになっております。政策パッケージもさらに分析し、参考に進めていきたいと思っております。新たな自殺対策として取り込めるものがあれば取り込んでいきたいと考えております。資料の 16 ページにお戻りください。

⑤自殺対策計画を決定する。

計画を策定するにあたっては、手引きや神奈川県計画を勘案に策定することになります。神奈川県の計画は、パブリックコメントが終わったところになります。資料５をご覧ください。素案のダイジェスト版となります。本編は全部で 185 ページとなります。今後、県の庁内会議、かながわ自殺対策会議、議会への報告を経て、3 月末に策定予定となっております。計画の策定にあたっては、県の計画も鑑みながら作成することとされています。

本市ではまず、計画の全体構成（案）として、資料６の「横須賀市自殺対策計画（仮称）の骨子案」を作成しました。これは、神奈川県の計画案や本市の分析をもとにたたき台として作ったものなので、ぜひ積極的な意見等をお願いしたいと思います。簡単ですがこれで説明を終了します。以上で説明を終了し

ます。

(座長)

ありがとうございました。ただいまの報告に関して、ご質問やご意見ありますでしょうか。たくさん資料がありますので分かりにくくて大変だと思いますが、いかがでしょうか。とても大事な資料7の進捗管理としては、来年の今の時期か3月位にはこの計画案ができているということ、それまでには様々な、先ほど来ご報告いただいたものが出来上がっていると思いますので、随時、次回の連絡会等で共有できればと思います。よろしいでしょうか、何かあれば後ほどお願いします。

では次、議事3にまいります。

(3) その他

(座長)

では、次の議事3にまいります。その他のご意見、ご質問ですけれども、資料等がございますので、まず追加で、中島構成員からお願いいたします。

(中島構成員)

黄色のチラシをお配りしていると思いますけれども、市民公開講座ということで、横須賀市の後援をいただきました。私共、横須賀こころの電話というNPO法人をやっておりますが、そこと、引きこもりの支援を行っているアンガージュマン横須賀の共催で、高年齢化するひきこもり状態を問うということで、2月17日にヴェルク横須賀で開催いたします。

講師として3名の方をお呼びしています。インクルージョンネット神奈川の明石さん、それから横浜若者サポートステーションの岡本さん、それからアンガージュマンの代表の島田さん、この3名でパネルディスカッション形式になるようにということで考えております。参加は一般市民に広く呼び掛けようと思っておりますけれど、どなたでも、直接、入場も無料ですし、事前申し込みはいりませんので。チラシに書いておけば良かったのですが、どうやって申し込んだらいいんですかという問い合わせが来たりしております。90名位は収容できるということで、実は私共のボランティアの相談員の研修も兼ねていますので、30名位は既に出席は確保していますので、我々のところにボランティアに来ている方も参加しますので、そういう人たちの研修の一環にもなればいいと考えておりますので、皆さん方もどうか、お知り合いの方やこういうことに関心のある方がいらっしやればお誘いください、よろしく願いいたします。

(座長)

ありがとうございました。大変重要なテーマだと思いますのでよろしくお願いします。では続きまして、橋本構成員の方からお願いします。

(橋本構成員)

司法書士の橋本でございます。今、中島先生から説明いただいた日とダブってしまって誠に恐縮なんですけど、カラーの青っぽいパンフレット1枚になります。2月17日にこども達の将来は今ということで、2部構成で組んでおります。神奈川県司法書士会が主催で開催いたします。横浜市立大学、八景の市大でやります。いちばん下に、同時開催ということで、横に交流教室なども予定されておりますので、お時間がある方はご参加いただければと思います、よろしく願いいたします。

(座長)

ありがとうございました。若者の問題を整理するということで、こういったことについても地域で何

かあればと思います。

もう一つ、私からでございますが簡単に紹介いたします。高齢者の自殺対策ということで、2月18日に、東京の方で日本精神科診療所協会が行う、高齢者自殺対策への様々な観点での調査などが行われている講演です。お時間がある方は、申し込みが必要ですが、今日の話でも横須賀市にとっても重要なことだと思います。もう一つ、これは高齢者の問題ですけれども、認知症に関しての市民講演、公開講座、庁内各所でご覧になったことがあるポスターかもしれませんけれど、横須賀市と医師会が中心になって主催している認知症についての啓発目的で3月に行います。申し込み制にはなっていますが、是非、認知症のご本人が話をされますので、色々話をしてもらえんと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

資料がない方も、ここで是非お伝えしておきたいことがある方がいらっしゃれば、構成員の方でいらっしゃれば、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

全体の中でも終わりに近づいている訳ですけれども、ハイリスクを考えると、高齢者、母子となっていくしますので、今回の計画策定の中でも、先ほど事務局から話があったように、庁内横断的に行うということで、様々な子どもの問題で、自殺未遂ケースとしてもあがってまいります。自殺未遂としてあがっていますので、一緒に保健所、それから児童相談所とか子どもに関する問題を含めて、庁内含めて、是非来年度以降、課題を持ち寄って是非やってほしい、高齢者も同じで、オーバーラップしていることの課題があるかと思っております。それから、従来から言われているように、中高年の方々の支援についてもご意見をいただきながら相談できればなと思います。

では、事務局にお返しします。

(事務局)

それでは、事務局から2点報告をさせていただきます。事務局では、自殺対策強化月間中の3月14日に自殺対策街頭キャンペーンを実施いたします。ご協力いただける方がおられましたら、どうぞよろしくお願い致します。2点目といたしまして、この連絡会ですが、年に2回の開催を予定しており、今年度はこれで終了となります。構成員の皆様方におかれましては、次年度も引き続きこの連絡会にご協力いただきますようよろしくお願い致します、以上でございます。

(座長)

事務局の方で報告がありましたけれども、調査のアンケートは、2月7日までにご意見がございましたら、事務局まで忌憚のないご意見、それから、先ほど言っていた講演会もご予約いただければ幸いです。

本日はこの辺りで終了としたいと思います、事務局に戻します。

(事務局)

座長、ありがとうございました。

阿瀬川座長につきましては、長時間にわたり議事進行ありがとうございました。

他の皆さまにおきまして、長時間ご審議をいただきありがとうございました。

それでは、これもちまして、平成29年度第2回横須賀市自殺対策連絡会を閉会といたします。

6 閉 会

以上で本日の議事及び研修会が終了し、閉会となった。

※この議事録は、構成員等の発言を事務局において要点筆記したものです。